

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2017.2

vol.130

平成28年度

脳卒中看護エキスパートナース研修を開催して

鹿児島医療センターでは、脳卒中の専門施設として脳卒中看護エキスパートナース研修を毎年開催しております。今年度も平成28年11月28日から12月5日までの6日間、院外9施設10名、院内3名の計13名の看護師が参加しました。



この研修は、脳卒中看護の質の向上を図るための知識・技術・態度を習得し、より専門性の高い看護実践ができる能力を育成することを目的に行っています。16名の講師により、脳卒中の病態生理・診断及び治療、運動・認知障害とリハビリテーション、脳卒中フィジカルアセスメント、重篤化回避・再発予防のための健康管理、地域連携の推進などの講義や演習を行いました。今年度は、患者個々に応じた急性期から回復期における、一貫した自立支援が理解できるように当院の認定看護師を中心にプログラムを検討しました。そして、認知症患者・家族の看護の講義や、回復期病院から2名の脳卒中リハビリテーション看護認定看護師をお招きし、より専門的視点からの講義や演習を新たに追加し、脳卒中看護について系統的に学べるような内容にしました。

また、脳卒中病棟、SCU、ICU、手術室では、救急外来から血管内治療における一連の流れや頭動脈ステント治療の見学を行い、脳卒中の病態に沿った治療や、急性期にある患者のモニタリングと看護ケア、障害に応じたリハビリテーション、患者家族を取り巻くチーム医療や社会問題について理解を深めることができたのではないかと思います。

最終日の事例検討では、これまでの経験と今回の学びをもとにした、事例を通して看護を語る事で、脳卒中患者・家族の自立支援の重要性を学び、急性期・回復期・維持期それぞれに必要な看護や患者家族への支援の在り方、今後、転院時に継続した援助を提供するために必要な情報をディスカッションする場になりました。

今後、脳卒中看護エキスパートナース研修生には、脳卒中患者の看護実践を通して役割モデルを示し、患者個々に応じた自立支援のために、他職種と協働しチーム医療においてリーダーシップを発揮されることを期待します。

私達は今後も多くの施設の方に参加していただけるよう、研修内容を充実させていきたいと思っています。そして、この研修を通して脳卒中地域連携における看護師間のネットワークの強化につなげていきたいと考えます。

（文責：東5階病棟師長 高木 幸子）



第9回 緩和ケア研修会



平成29年1月8日（日）、9日（月）の2日間、鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校において、当院主催の第9回目の緩和ケア研修会を開催しました。

受講生は、研修医2年目から臨床経験35年の医師18名、多職種15名が参加しました。

例年、講師・協力者としてお世話になっておりますKKR札幌医療センター緩和ケア科の瀧川千鶴子先生をはじめ、県内より6名の医師、4名の認定看護師の皆さま、当院の各部署からも多くの協力を頂き、円滑に進行することができました。

今回の研修会では、緩和ケアに関する講義、事例検討、ロールプレイに加え、初めての試みとして、患者会よりNPO法人がんサポートがこしま理事長の三好綾さん、副理事長の野田真記子さんにも協力者として参加して頂き、三好さんにはご自身のがんの体験を通して感じたこと、医療者に望むこと、患者会での活動、いのちのメッセージ等、講演して頂きました。心にグッとくるお話しばかりで、受講生はもちろん協力者も気づきや学びになったと思います。

研修終了後の受講生からは、「緩和ケアについて正しく学べた」「多職種での連携の重要性を改めて感じた」「実際の体験談から、患者さんの考えや希望など、医療者側からでは感じる事が難しい点を聴くことができた」「非常に内容の濃い研修を受けられた。今後の医療現場に役立てたい」などの感想があり、患者さんや御家族のつらさを全人的視点で捉えること、包括的な評価と適切な対応にはチームアプローチが重要であることの理解が深まったのではないかと思います。研修会で学んだ基本的な緩和ケアを、臨床の場で少しずつでも実践していただければ幸いです。

最後に、この場をお借りしまして、研修会の準備から当日までサポートして頂いた、講師・協力者の皆さまへ心より感謝申し上げます。今後も、内容をさらに充実させて開催していく予定です。多くの職種の皆さまのご参加及びご協力を宜しくお願い致します。

（文責：緩和ケアチーム 水流 尚子）

緩和ケア研修会に参加して

平成29年1月8日（日）と9日（月）の2日間、鹿児島医療センター附属看護学校で開催された緩和ケア研修会に参加しました。患者会代表の三好さんをはじめ、「がん」という疾患に関わる多くの方々と共に、非常に充実した研修を受けることが出来ました。

講義内容は緩和ケアの総論から呼吸苦や疼痛コントロールといった症状の各論、告知及び在宅ケアについてと多岐に渡りました。特に2日目最後のグループワークでは「在宅での緩和ケアを希望する終末期の患者さんとその家族」について、各々の職種が各自の立場からどのようなサポートが可能か、非常に活発な議論が交わされていました。患者さんと家族が可能な限り納得のいく治療・看護を受けるために、医療スタッフ間はもちろん、行政機関や患者会・家族会とも知識の共有や意見交換を積極的に行っていく必要があると実感しました。

がん診療連携拠点病院である鹿児島医療センターで初期臨床研修を開始し、がんに関わる多くの患者さんとの出会いがありました。今まで関わってきた患者さんと御家族のことを振り返り、これまでの自分の言動や対応を改めて考え直すことのできた非常に貴重な2日間だったと思います。今回学んだことを臨床の現場で活用し、還元できるよう努力していきたいと思います。ありがとうございました。

（文責：臨床研修医 永田 真子）

今回、緩和ケア研修会に参加させていただきました。

疼痛コントロールでの鎮痛剤の使い方やオピオイドスイッチング、副作用対策等の講義では、普段の業務でも深く関わるところであり、自分の知識を深めることができました。

気持ちのつらさ、せん妄に対する薬物療法の講義では、関連因子の把握や原因・環境への介入方法、具体的な治療方針について学ぶことができました。

また、コミュニケーション力が試されるロールプレイでは、患者さん役や観察者役を経験することで患者さんとの接し方を見直すよい機会となりました。

がん体験者の講演より、患者さんの気持ちや医療スタッフに求めることを学ぶことができたことはとても大きな経験でした。薬剤師として日頃患者さんと接する中で、薬物療法や副作用の把握に思考が齎りがちですが、患者さんやその家族の背景にも目を向け、患者さんの思いをくみ取り不安の軽減を図ることの大切さを改めて学びました。今後は、患者さんが安心して治療に臨むことができるように、今回の研修で学んだことを日頃から意識して関わっていきたいと思います。

今回研修を開催するにあたり、企画・運営して下さったスタッフの皆様感謝いたします。ありがとうございました。

(文責：薬剤師 平峯 侑志)



病棟紹介 ■ 東7階病棟 ■



東7階病棟は循環器内科、糖尿病・内分泌内科の50床の混合病棟です。病棟スタッフは循環器医師7名、糖尿病・内分泌科医師4名、看護師36名、看護助手5名、看護助手クラーク1名、医師クラーク1名で構成されています。

入院患者様は鹿児島全域に及び、地域の医療と連携し、受け入れを行っています。循環器の主な疾患は、心筋梗塞や狭心症など虚血性心疾患で、心臓カテーテル検査や冠動脈拡張術などの治療目的が7割、不整脈・心不全治療も積極的に行っています。昨年11月から循環器ホットラインが始動。ICUを中心に、病棟も連携し、受け入れを行っています。糖尿病・内分泌内科の主な疾患は、1型・2型糖尿病であり、薬物療法・教育入院のほか、内分泌疾患の検査・治療も行っています。

スタッフステーション内は、所狭しと電子カルテや心電図モニターが並び、常に25名前後のモニターが稼働しています。看護師は異常を早期にキャッチできるように、モニター波形に注意を払い観察しています。

同診療科ともに、チーム医療を主軸にした、多職種による毎週のカンファレンスを行い、情報共有し、治療・看護ケアを行っています。

生活支援を基盤とし、糖尿病療養指導士・フットケア資格取得者・カンパセーションマップ資格看護師が糖尿病患者の自律性やセルフケア能力、自己効力感が高められるように、教育的視点で関わり看護を行います。また糖尿病患者の週末教育入院では、医師・薬剤師・栄養士・理学療法士・糖尿病看護認定看護師が専門的に関わり、疾患の理解や生活支援を行っています。そして虚血性心疾患・心不全などの患者様へも入院時から生活習慣の確認を行い、安心した生活に戻れるように退院支援しています。

尚、糖尿病看護認定看護師による相談・教育支援が必要な方は、多くのご連絡をお待ちします。

(文責：病棟部長 堂園 文子)



クリスマスコンサート

12月17日土曜日、毎年恒例となりました。院内クリスマスコンサートが開催されました。今回で13回目を迎えました。今年も医療サービス委員会を中心に大勢のスタッフの協力のもと、コンサート会場となった玄關ホールの飾り付けを前日より行ないクリスマスにふさわしいステージを設営することができました。

花田院長より開会のあいさつを頂き、コンサートがスタートしました。

初めはつくし保育園の園児たちによるお歌披露、元気いっぱいの歌声に患者様方のお顔もほころんでいました。お歌の後はサンタさんやトナカイさんからプレゼントをもらい園児たちも大喜びでした。次に看護学生34名によるコーラス、看護師長会のハンドベルと続ききれいな声のハーモニヤや優しい音色に心癒されました。また毎年ご出演して頂いている吹奏楽団サザンウィンドさんによる演奏では今年もバラエティーにとんだ大変聴きごたえのある演奏を披露して頂きました。最後に今年初めてご出演いただいた「琴伝流大正琴びおら会」の皆様の大正琴の演奏では、迫力のある楽しい演奏で会場を盛り上げて頂きました。

出演して頂いた皆様の工夫を凝らした心温まる演奏に患者様、ご家族も聞き入り沢山の拍手が沸き起こっていました。

コンサートの余韻が残る中、患者様、ご家族にはティーパーティ会場へ移動して頂き、栄養士や調理師によるスイーツや果物、温かい飲み物をゆっくり楽しんでいただきました。

コンサート中は行き届かない点多々あったことと思いますが、患者様方と共に楽しい時間を過ごすことが出来、私達職員も大変うれしく感じました。

今後も患者様の笑顔を糧に職員一同協力し合って医療サービス向上のため努めて参りたいと思います。

(文責：医療サービス向上委員会イベントチーム 小迫 多喜子)



第7回 心臓・血管病市民公開講座 ～高血圧と心臓病～

開催日：平成29年3月12日(日) 13:30～16:20

場 所：：かごしま県民交流センター

講演①：「高血圧の予防と治療」～①に減塩、②に運動、③に薬
福岡大学名誉教授：荒川 規矩男 先生

講演②：当院の循環器内科医師、栄養士及び薬剤師による講演

【お問い合わせ】：TEL099-223-1151(代表) ※予約不要・入場無料



■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター (循環器・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

代TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域連携】 奥田・谷口・田上・吉永・椋原・泊田・中田・吉留・菊永・久保・櫻木・田辺・宮崎

【がん相談】 松崎・森・水元・木ノ脇・原田・上妻

フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

